

レファレンスツールの評価

吉田 光美 (白百合女子大学)

0. はじめに

1. レファレンスツールを評価すること

- ・ レファレンスツールとは
- ・ 資料的価値と使い手にとっての価値
- ・ 図書館における評価の視点

2. 選ぶ・集める ～選択と収集にあたっての評価～

(1) 評価の目的

- ① レファレンスコレクションの構築
- ② 商用データベースの選択
- ③ リンク集などの作成

(2) 評価に関わる要素

- ① サービス方針
- ② 地域の特性や事情
- ③ 利用者のニーズ
 - ・ 現在のニーズ、隠れたニーズ、将来のニーズ
 - ・ ニーズを知るには
 - ・ ニーズと優先順位

(3) 選択と収集のためのツール

存在を知り、評価の参考となるツール

- ・ レファレンスブック(既刊・新刊・近刊)
- ・ データベース、Web サイト

(4) 選択と収集に際しての留意点

レファレンスブックとデータベース

図書館員と利用者のスキル／利用環境／安定性／コスト／データの範囲／情報の詳しさ／情報の新しさ／見やすさ／検索効率／検索項目／検索しやすさ／一次資料や参考情報への案内・リンク

(5) レファレンスブックの評価ポイント

① 蔵書構成に照らした評価

- ・ 新館開館時の収集
- ・ レファレンスコレクションの欠落や不足部分の補充
必要な分野／必要な量／複本／新しい情報の補充／バランス

② 編集、出版、内容、形態などに関する評価

書名／著者・编者／出版社／版／出版年／全体の構成・レイアウト／凡例／記述／目次・索引／出典・参考文献／図版、写真、図表／付録／内容にかかわる事項(グレード／主題／情報量／網羅性)／造本・形態にかかわる事項(利用しやすさ／管理に関する課題)／価格

③ 他のレファレンスツールとの比較評価

④ 図書館業務への貢献度

⑤ レファレンスブックの“基本図書”とは

3. 整える ～利用のための整備や管理のための評価～

① 別置か混配か

② 配架の工夫や利用への配慮

③ 開架・閉架の区分

④ 貸出区分

4. 使う ～調査にあたっての評価～

① 利用者の情報要求にこたえられるツール

② 利用者の要求する条件にこたえられるツール

③ Web サイト評価の観点

5. 見直す ～レファレンスコレクションの再評価～

① 蔵書構成や個々のツールの見直し

② 保存や除籍

6. 伝える ～評価結果を活かす～

7. つくる ～“よい”レファレンスツールをつくる～

8. 演習